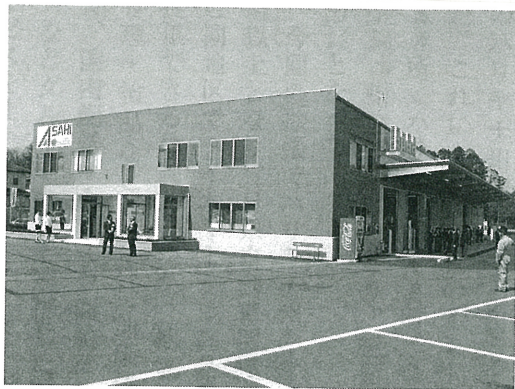


アサヒオートサービスの整備工場を滑川営業所内に移転・新設 能力を2・5倍に拡大し太陽光発電も設置

アサヒロジスティクス



アサヒロジスティクス（横塚元樹社長）は、系列の車両整備会社・アサヒオートサービス（同）を埼玉県滑川町の滑川営業所内に移転・新設し、3月28日に開所式を開いた。また同時に滑川営業所も

竣工した。

アサヒオートサービスは、主にアサヒロジスティクスの車両整備を行うことを目的に95年、埼玉県小川町に開設。大中型トラックと乗用車併設の3レーンを持ち、当初は年間200台を整備していたが、現在はアサヒロジスティクスが365日・24時間の業務を行っており、車両の増加と故障なく安定した車両維持が必要となり、さらなる整備工場の充実が求められたことから今回の移転、新設となった。また滑川営業所は、冷凍・冷蔵庫を併設した約800平方メートルのセンターとして94年に開設。建設経過年数も経ち、運行の効率化を考え、整備工場とともに新設した。

新整備工場は、床面積986・29平方メートルで、大中型トラック兼用と中型トラック用ラインが各2レーン、乗用車用ラインと検査ライン、板金ラインが各1レーンの計7レーンと、旧工場の2・5倍の能力を持ち、将来は民間車検も視野に入れている。工場の屋根には太陽光パネル（ネクストエナジー製）を192枚設置、年間発電量を5万1000キロワットと想定し環境にも対応している。事務所は120平方メートル。滑川営業所は282平方メートルで、冷凍・冷蔵庫は廃止した。

また従来30キロワットの軽油スタンドがあったが、東日本大震災の教訓からインタンクを70キロワットに増設し計1000キロワットとして災害時にも安定した燃



料確保を行う。開所式で挨拶に立った横塚社長は、「当社は、関東・甲信越、東北の一部の外食やスーパ

ー、コンビニエンスストアなど約1万店舗に毎日配送している。何百万人という方々の生活、命に直結した重要な仕事と認識している。最も大切な責任として、どんなことがあっても食材を届けることを自覚している。アサヒオートサービスは、トラックが止まってから修理をするのではなく事前にしっかりと整備し、どんなことがあっても止めない、ということでも設立された。今後もしっかりと稼働させながら、人材も育成してゆく」と述べた。また、来賓を代表して滑川町の柳克実副町長と三菱東京UFJ銀行新座志木支社の大平孝一支社長が挨拶、埼玉県トラック協会の鳥居伸雄会長の乾杯で祝宴に入った。

最後に御礼の挨拶に立った横塚正秋会長は、「立派な設備ができたが、これに魂をいれるのは全ての社員の役割だ。当社が苦しい時代はヒト・モノ・カネの管理ができていなかった。新車は平均5年6ヵ月しかもたず、燃費も悪く路上故障も多発していた。それにより業績が悪化し、10年もつ車両管理をつくることにして整備を自社でやることにした。今は路上故障がほとんどなくなり、顧客にも迷惑をかけなくなった。修繕費も微々たるものになり、予防整備がいかに重要かということを感じ知らされた。オートサービスの使命は外に営業をかけて儲けることではなく、顧客やドライバーに不安をあたえないことだ」と述べた。